

環境・農水常任委員会 県内行政調査

1 調査日 平成 30 年 2 月 9 日（金）

2 調査の概要

（１）畜産技術振興センター（日野町）

畜産技術振興センターは、昭和 60 年に統合整備され、環境との調和に配慮した畜産技術と安全、安心で良質な畜産物の生産を推進するため、実用的な技術開発および技術指導、優良家畜の譲渡や後継者育成を行っている。

近年、子牛の価格高騰が続いており、安定確保に向けた地域内一貫生産体制を強化するため、乳用牛への和牛胚移植の推進により、和牛子牛の生産増大とともに、酪農家の収益向上を目的として、同センター内にキャトル・ステーションを新築することとし、平成 29 年 10 月に建設に着工したところである。

なお、近江牛については、平成 29 年 12 月に滋賀県初の G I（地理的表示）に登録されたことから、今後、県内外および海外でもさらに需要が見込まれる。

ついては、近江牛の繁殖拠点としての取り組みおよびキャトル・ステーション建設の現状について調査を行った。



（２） 滋賀県森林組合連合会 木材流通センター（東近江市）

木材流通センターは、平成 24 年 7 月に県産材の需給調整機関として滋賀県森林組合連合会により開設された。同センターでは、県内の森林組合などが生産する丸太を受入れ、主に合板、木質チップ等の用途、品質、規格に対応した適切な丸太の選別を行い、丸太の価値を高めていくとともに、ストック機能を果たしながら県内外の大型製材工場等の大口需要者に向けて、大型トレーラーで直送して流通経費を圧縮するなど、県産材の効率的で安定した供給を図るための役割を担っている。

また、滋賀県産木材流通促進協議会（滋賀県森林組合連合会木材流通センター、甲賀林材株式会社、株式会社スンエン関西支店長浜営業所）を通じて、県内の木材市場と木材流通センターが相互の連携に取り組んでいる。

近年は、開設当初に比べて県産材の取扱量が増加しつつあり、今後さらに県産材の安定供給と利用拡大への寄与が期待されている。

については、本県における木材の生産、流通等の現状について調査を行った。

